



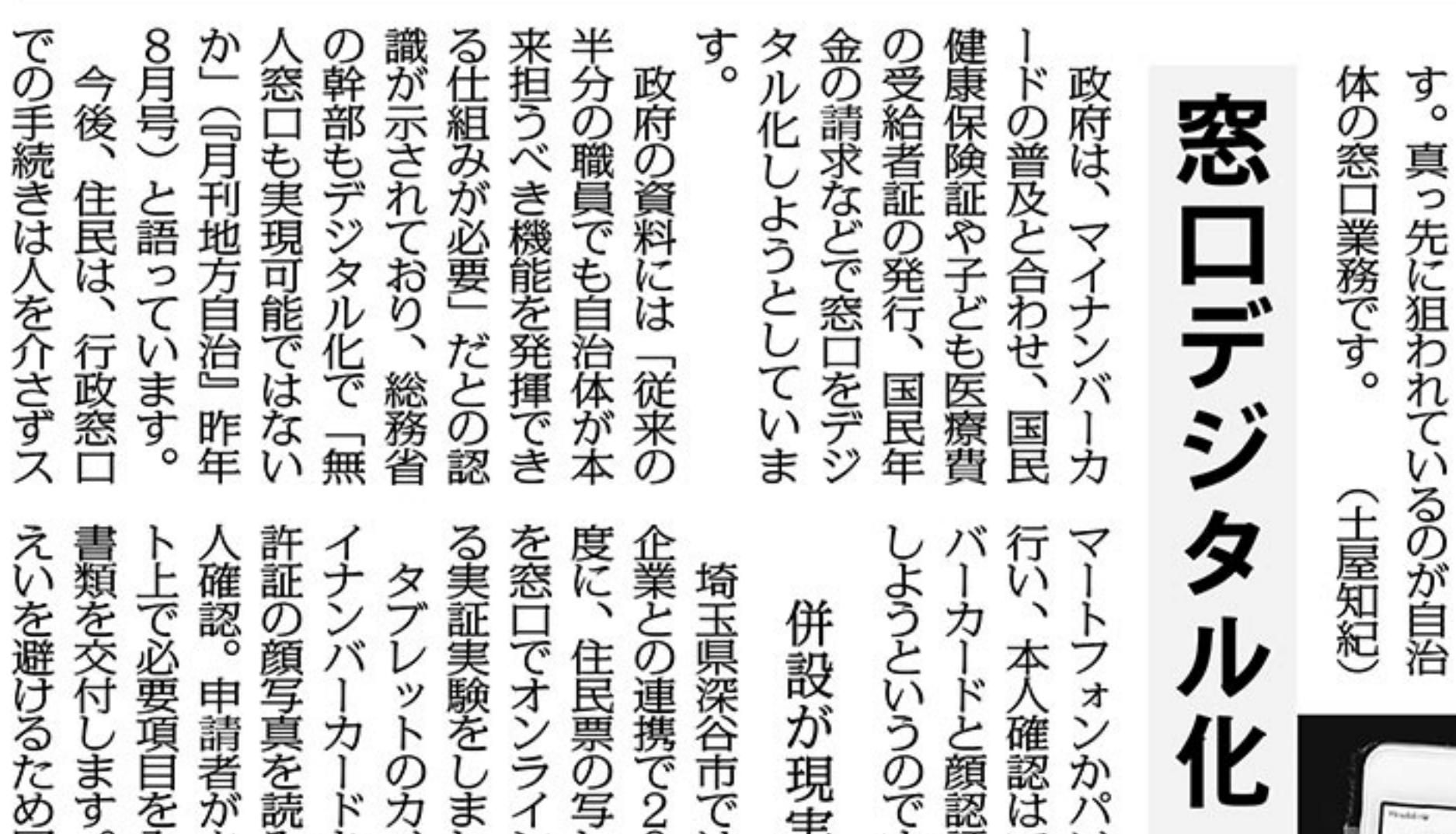
支援者とともに当選を喜ぶ原のり子氏(中央)=4日、東京都東久留米市



応援をうけた立憲民主・新社会党北区議や市民、池内さおり前衆院議員と当選を喜びあう、そねはじめ氏(中央)=4日、東京都北区



喜びを爆発させる米倉春奈氏(前列左から3人目)=4日、東京都豊島区



コロナ禍で破綻が明らかになった公務員削減を、菅政権はいつそう進めようとしています。そこで出てくるのが、職員を電子機器や情報通信技術で置き換えるデジタル化戦略です。真っ先に狙われているのが自治体の窓口業務です。(土屋知紀)



埼玉県深谷市では、民間企業との連携で2018年6月の96人の職員が参加しました。実験の結果、顔認証は他の窓口でオンライン申請をすることが可能になりました。

政府の資料には「従来の半分の職員でも自治体が本來抱くべき機能を発揮できる仕組みが必要だとの認識が示されており、総務省の幹部もデジタル化で無人窓口も実現可能ではない」と語っています。今後は、住民は、行政窓口への手続きは人を介さずすえいを避けるため同市の20

都議選勝利 共産党候補と支援者喜び

「私たち、新型コロナウイルス対策として、感染拡大の防止にワクチンの迅速で安全な接種と一緒に大規模なPCR検査をやること、そして十分な補償と生活支援を行うこと、医療機関に対する都政をつくるという点が、政が進める都立・公社をやめ、都立病院は直営のまま拡充を」と訴えました。こうして、そのコロナ対策について多くの共感が得られましたと考えています。

「私たち、新型コロナウイルス対策として、感染拡大の防止にワクチンの迅速で安全な接種と一緒に大規模なPCR検査をやること、そして十分な補償と生活支援を行うこと、医療機関に対する都政をつくるという点が、政が進める都立・公社をやめ、都立病院は直営のまま拡充を」と訴えました。こうして、そのコロナ対策について多くの共感が得られましたと考えています。

政への転換を訴えました。この都議選をたたかいました。一つはケアに手厚いダーペ等の東京個人の尊厳を大切にする政策の実現を訴えました。二つ目として稼ぐ超低空飛行の問題など、米軍の横暴勝手をつくると四つのチャンスを都政の問題で訴えています。

尾崎あや子氏(中央)の3選を喜び、万歳する支援者ら=4日、東京都東久留米市

活発な梅雨前線の影響で関東・東海地方を中心に激しい雨が降り、静岡県熱海市伊豆山で大規模な土石流が発生しました。多くの家屋が押し流され巻き込まれて亡くなったりがっています。断続的に降り続く雨による一次被害を警戒しながら、安否不明者の懸念な捜索活動が続いています。なり急がれるのは人命救助です。被災の状況を早急に把握するとともに、被災者への積極的な支援が欠かせません。今後も強い雨が予想される中、被害を拡大させない政府・自治体の取り組みが急務となっています。

建物も車もののみ込まれる土石流被害にあった現場は、JR熱海駅から北に約1・5キロ、住

熱海・土石流

宅や宿泊施設などが立ち並ぶ川沿いの傾斜地でした。がれきじりの泥流が轟音とともに建物を壊し、車両のみ込んで流れ下るソッパーに投稿された現場をどうぞをまさと示しました。土石流は複数回発生したとみられます。

命を救い被害広げぬ対策急げ

す。「走って逃げた。危機一髪だった」バスが持ち上がりて流れのを見た。難を逃れた人々は日々恐怖を語ります。安否不明者の捜索と救援は悪天候でたびたび中断することに加え、「一帯を埋め尽くした大量の土砂や家屋の残骸などに阻まれ、難

石流の予測はともと困難とされます。雨がやんしばらくたって発生した土石流が大きくなれば手ごたえがありまし

た。わが党的都議選で訴えた政策の内容、政治姿勢は、これは的確なものであり、都民のみなさんの利益にかなつた方針を掲げたといふふうに思います。

四つ目として稼ぐ超低空飛行の問題などをめざして平和の東京やめさせて平和の東京をつくると四つのチャンスを都政の問題で訴えています。

梅雨末期の7月初旬、毎年のよう大雨によって犠牲者がいる事態はあまりに深刻です。気候変動へ避難指示の発令のタイミングが体制をつくることが重要です。適切だったのかどうか、徹底検証が急がれます。今回の現場のよう命を守るには早めの避難が不可欠です。土石流発生前に熱海市が岡山、広島、愛媛県などで甚大な被害をもたらした西日本豪雨から3年になります。いまも被災地は多くの苦難を抱えています。

梅雨末期の7月初旬、毎年のよう大雨によって犠牲者がいる事態はあまりに深刻です